

竹の子川柳会

おなかなり今か今かとまっている

小二 新野 翔太

人生はてこぼこの道迷い道

小五 山田 清也

今さらにテストペンきようやっている

小六 石崎 海士

寒い中動物たちは生きている

小六 梶野 海斗

次の日に着る服迷い決まらない

中一 淵本 ななみ

どうしよう高校どこか迷ってる

中三 清原 瑠依

寒い朝空から白いプレゼント

中三 吉良 ちひろ

寒い日に食べるお鍋は世界一

中三 菅元 聖羅

なれぬ土地外出中に道迷う

中三 平戸 聖羽

友達とついしちやう長電話

高一 清原 沙耶

努力こそ今を生き抜く糧となり

高二 宮崎 京

人生は迷いが多い難しい

高三 上岡 夢菜

この寒さ夏の太陽恋しいな

高三 榎 美咲

迷出する迷わぬように下しらべ

高三 宮川 直輝

金婚式何度もあった千鳥足

渡辺 照子

お年玉千円札に不満顔

渡辺 光男

吐いたことばがのみ込めないでただ悔いる

加藤 桂子

外国の言葉も学びおもてなし

男武志津江

ことば使いおのずと出てくるお人柄

水野 すみこ

冗談も言葉のミスで波紋呼ぶ

宇都宮 忍

元氣一杯ことばが戻る通学路

若宮 賢敬

ありがたうの言葉で降りるトラクター

熊本 忠真

練り上げた愛の告白待つチャンス

山本 雅之

少年の無口いつしか引き籠り

宮川 柳酔

意気地なし覚悟ないなら言い寄るな

伊勢本 恵

齢八十煩惱多く無になれず

川添 忠昭

今日の無事明日の幸せ噛みしめる

米子 達雄

ひよし川柳会

鬼北の足跡を辿る…【第6回】

「室町時代から戦国時代の鬼北」

鬼北町内には、40数カ所の城跡があります。中世の山城とは、文字通り山の上を平らに削ったり、土を盛るなどして曲輪（くるわ）と呼ばれる平場を造り、堀切や土塁といった防御施設を周りに廻らせるなどして造られた、いわば「土造りの城」です。

当時の鬼北は、三間郷から黒土郷が分かれて残りが成妙郷となり、成妙郷から好藤郷が分かれ、さらに、好藤郷から百姓分郷が分かれたとされます。そして、各郷内で諸村が成立していきました。村の単位は、多少の変動はありますが、現在の大字とあまり変わっていません。

各地域には、それぞれ荘官と呼ばれる荘園の代官職や地頭という地域領主が配されていました。京都での応仁の乱以降、幕府の権力の弱まりとともに守護制度が崩壊し、各地で地域領主（国人領主）を束ね、地域権力をもった大名が台頭してきます。群雄割拠といわれる戦国時代です。

大河ドラマでも人気が高く、華やかさを感じられる戦国時代ですが、当時の庶民の暮らしは、青田刈りや刈田狼藉放火、略奪といった命の危険と隣り合わせでもありました。



河後森城跡(松野町教委提供)

山城には、領主の居城や本城と呼ばれる大規模なものが注目されがちですが、堀切や土塁、切り岸などの細部の造りが曖昧で、戦略的な意図が読みえないような城が少なからずあります。こうした城跡は一つの曲輪から成る小規模なものも多く、造りかけ、あるいは造り手が武士階級ではなかった可能性が考えられ、庶民が造った「村の城」とする議論もあります。

戦国期の武将土居清良を描いた歴史書「清良記」には、当時の鬼北地域の情景も記されています。今年3月19日、松野町で第3回目となる「清良記シンポジウム」が開催されます。地域の歴史を知る良い機会ですので、ぜひ、ご参加ください。